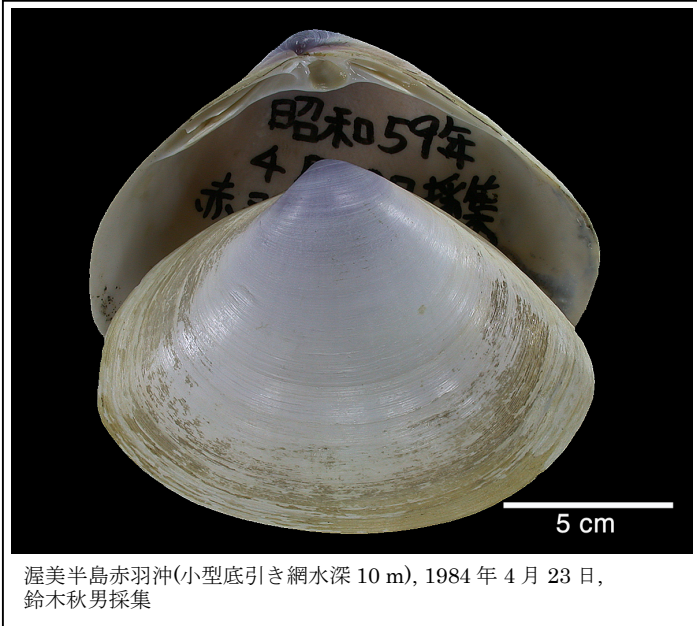


アリソガイ *Mactra antiquata* (Spengler)

【選定理由】

本種はやや外洋に面した潮下帯の細砂底に生息する。県内では内湾域から湾口部にかけての潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種は 1960 年代には三河湾湾口部から渥美外海で底引き網によって普通に採集されていた(愛知県科学教育センター, 1967) が、長い期間、伊良湖岬から渥美半島外海側で打ち上げられた古い死殻が少数採集される事はあったものの、生貝は採集されなかった。近年渥美外海の浅海域で操業する底引き網に合弁の死殻が採集されるようになり、三重県側の伊勢湾湾口部から伊勢湾ほどではないが回復傾向が確認された。前回 (CR) よりランクダウンするべき種と評価された。



渥美半島赤羽沖(小型底引き網水深 10 m), 1984 年 4 月 23 日,
鈴木秋男採集

【形態】

殻長約 12 cm と大成し、殻は亜三角形でやや膨らむ。殻は薄く、殻頂部は淡紫色で他の部分は白色。

【分布の概要】

【県内の分布】

現在生息が確認できない。しかし、非常に新しい死殻が渥美外海で比較的多く採集されるようになった。近年明らかな回復傾向が認められる。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、東南アジア、国内では房総・男鹿半島～九州に分布する(福田, 2012)。伊勢湾湾口部～伊勢湾の三重県側では台風後などに大型の生貝が打ち上げられたり、冬の季節風で合弁の死殻が普通に打ち上げられたり、明らかな回復傾向が認められる(木村, 未発表データ)。和田・他(1996)で“三河湾”大淀周辺がかつての多産地としてあげられているが、伊勢湾(三重県側)の誤り。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような潮下帯の環境は破壊されているので、本種の生息場所、個体数とも激減したと考えられる。特に本種は水質汚濁に弱い種とされている(和田・他, 1996)。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

本種の和名の「ありそ」は通常「荒磯」を示し、「岩石が多く荒波の打ち寄せる海岸」という意味であるが、本種の生息環境を表すものではない(岡本・奥谷, 1997)。

【引用文献】

- 愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物. 222pp.
福田 宏, 2012. アリソガイ, p. 139. in: 日本ベントス学会(編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック. 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
岡本正豊・奥谷喬司, 1997. 貝の和名. 相模貝類同好会. 95pp.+X iii.
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

(木村昭一)